

2024

教育実践総合センターレポート

大分大学 教育学部附属教育実践総合センター

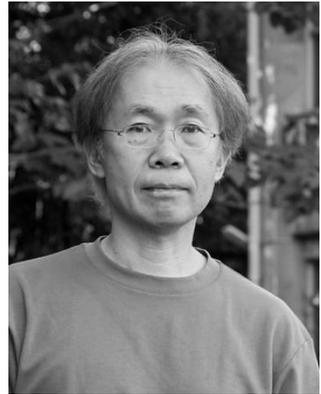
no. 44

目 次

1	ごあいさつ	1
2	教育実践総合センター概要	2
3	教育実践総合センターの機能と取組	4
	【I 教育実習や体験的な教育活動の指導】	4
	【II 教師育成サポート推進室事業】	7
	【III 研修及び調査研究支援】	9
	【IV 附属学校園との連携・支援】	11
	【V 教育・研究活動】	19
	【VI センター刊行物】	23
	【VII 施設活用（施設利用状況）】	25
4	センター規程，紀要の編集・発行及び投稿に関する内規	27

1 ごあいさつ

2023（令和5）年度の実践センターでは、2023年3月に事務職員の小野目依さん、4月に前田菜摘先生を迎え、新たな体制でスタートすることができました。近年のセンターに求められる役割が、学生に向けた教員養成支援や教育実践研究が主となりつつあることで、学生一人ひとりの姿がより鮮明になってきたように感じております。このような支援や研究の先には、学生が卒業後に現場で活躍できる教員となってほしい願があります。



子どもたちにとって、学校の先生は家族と同等以上の時間を共有する身近な大人であるため、その姿を通じて社会を知ることになります。その影響力を想像すると、やりがいのある仕事であると同時にその重責から緊張感も高まります。教育学部に入学してくる学生にとって、小中高時代の先生の影響から教師を目指すきっかけになったケースが少なくありません。そのような学生が大学の授業や教員育成サポート推進室などで子どもたちとの関わり方を学んだり、教育実習やまなびんぐサポートで直接ふれ合ったりすることで、憧れの存在であった恩師がどのように児童生徒に接してきたか、現実味を帯びたかたちで理解していけるのではと想像します。今後も理想の教師を目指す学生や、現場で活躍している先生方へのより良いサポートができるように邁進していきます。

今号から表紙のデザインを一新しました。前号から電子媒体のみでの刊行となったことから、今までの左開きの冊子体であることを前提としたデザインではなく、Web上では縦スクロールで読まれることや、本文との繋がりがシームレスになるシンプルな構成を意識しました。

ご高覧賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

大分大学教育学部附属教育実践総合センター
センター長 廣瀬 剛



大分大学 教育学部附属教育実践総合センター

2 教育実践総合センター概要

大分大学教育学部附属教育実践総合センターは、1979（昭和 54）年に教育実践研究指導センターとして開設以来（2001（平成 13）年に改称）、教育実践に関する理論的・実践的研究を行うとともに、教育実践の指導力を身に付けた教員の養成を担ってきた。なかでも、大分県から派遣された現職教員を客員研究員として受け入れ実施した教育実践研究の指導は、2014（平成 26）年度まで多くの教員を育成した。1 年間の研修を終えた研修生は、大分県内の教育現場の多方面で活躍している。

2016（平成 28）年度の学部改組では、さらに体制強化を図り、教育実践、発達教育臨床の 2 部門を主たる業務とし、併せて「まなびんぐサポート」、「教師育成サポート」の抜本的な見直しを図った。なお、2020（令和 2）年度より、専任教員の異動のため、発達教育臨床部門は休止中となっている。

現在、専任教員 3 名、非常勤講師 2 名体制で、調査研究支援、研究・広報活動、学部・大学院への参与、附属学校園との連携、県・市町教育委員会との連携等、広範囲な業務を担っている。

1 所在地

住所 〒870-0819 大分県大分市王子新町 1 番 1 号
Tel 097-543-4933
Fax 097-543-4936
URL <http://www.ed.oita-u.ac.jp/shisetsu/center/>

2 構成員

<センター長>

教授 廣瀬 剛

<発達教育臨床部門>

<教育実践開発部門>

教授 麻生 良太
准教授 森下 覚
講師 前田 菜摘
非常勤講師 中野 正倫
非常勤講師 加地 伸二
事務補佐員 小野 目依

3 事業の概要

【Ⅰ 教育実習や体験的な教育活動の指導】

- 1 教育実習の指導
 - ・事前事後指導の企画・運営
 - ・授業計画・実施における指導・助言
- 2 体験的な教育活動（教育支援実践研究Ⅰ・Ⅱ）の指導

【Ⅱ 教師育成サポート推進室事業】

- 1 教師育成サポート推進室主催講座
- 2 教員採用試験対策講座

【Ⅲ 研修及び調査研究支援】

- 1 研修支援
 - ・大分市教育センターから依頼された教職員研修
- 2 研究及び調査研究支援
 - ・大分県教育センター長期派遣研修生の研究支援
 - ・大分県教育センターにおける調査・研究支援
 - ・大分市教育センターにおける調査・研究支援

【Ⅳ 附属学校園との連携・支援】

- 1 附属幼稚園
- 2 附属小学校
- 3 附属中学校
- 4 附属特別支援学校

【Ⅴ 教育・研究活動】

- 1 学部への参与
- 2 他学部・大学院への参与状況
- 3 県・市町村教育委員会との連携状況
- 4 附属学校園との連携
- 5 社会貢献
- 6 外部資金等導入状況

【Ⅵ センター刊行物】

- 1 教育実践総合センター紀要
- 2 教育実践総合センターNews Edu-ta!
- 3 教育実践総合センターレポート
- 4 人材バンク

【Ⅶ 施設活用（施設利用状況）】

※ 発達教育臨床部門は現在休止中である。

3 教育実践総合センターの機能と取組

【1 教育実習や体験的な教育活動の指導】

1 教育実習の指導

教育実習をより効果的に実施するために、教育実践総合センターでは、学部3年次に教育実習の事前指導・事後指導を企画している。2018（平成30）年度からは、教育学部に改組後の学部生が実習に行っている。

2021（令和3）年度までは、これまで学部3年次の主免の教育実習が小学校と特別支援学校のみだったのが、2022年度に3年になる学生から、主免1として小学校または特別支援学校への実習、そして主免2として幼稚園または中学校に実習と、3年次後期に2回教育実習に行くことになった。なお、主免1の小学校への実習については、約4分の1の学生が公立の小学校で実習を行うこととなっている。

こうした変更の中、教育実践総合センターが担当する教育実習の事前指導・事後指導の企画・運営は初等（小学校）に特化することで、よりきめ細かい指導ができるようにしている。

教育実習事前・事後指導では、実習先で学ぶ内容が実習校で大きく異なることのないように、各実習校の実習担当者と打ち合わせを行い、計画を立てるよう配慮を行った。その際、各実習校の実習担当者の先生方、特に附属小学校の先生方には、指導案の書き方や、ICT活用、授業記録の取り方や授業の見方等の講義を担当していただいた。大学側においても、事前指導案を作成する時間を2コマ事前指導において確保し、各教科の先生方に指導・助言をいただく時間を取ることで、実習へ向けての準備がさらに充実する取組となった。

2023年度	実施内容	対象・人数
	主免教育実習（初等） 事前指導	学部3年生
5月24日	オリエンテーション～教育実習の意義と心得～	145人
5月31日	授業記録の取り方・分析について①	
6月7日	授業記録の取り方・分析について②	
7月19日	授業づくり及び学習指導案作成について	
7月19日	学習指導案作成演習(1)	
7月26日	ICT活用よび板書について	
7月26日	学習指導案作成演習(2)	
	主免教育実習（初等） 事後指導	
11月29日	教育実習を終えて	
12月6日	学校の現状と教師の課題	
	教職展開ゼミ 事前・事後指導	学部2年生 145人

2 体験的な教育活動の指導

教育支援実践研究Ⅰ・Ⅱは、「まなびんぐサポート」事業への参加を単位履修の条件としている科目である。「まなびんぐサポート」事業は、2004（平成16）年3月の「大分市現職教員教育等連携推進会議」において大分市教育長と大分大学教育福祉科学部長との間で学生ボランティア派遣事業が合意されたことを受けて開始した事業である。同年10月の事業開始から、学校現場からの支援要請に応える形で地域の学校園に大学生を派遣してきており、2023（令和5）年度で20年目を迎えた。

「まなびんぐサポート」事業の目的は、教職志望学生が学校現場において教師の仕事を見る、あるいは実際に子どもを支援することで学び、自身の教育観・子ども観・授業観などを育むとともに「実践的指導力」を身につけることである。主に附属学校園で1ヶ月程度行う教育実習とは異なり、本事業では地域の公立校園において最長6ヶ月間にわたって定期的活動を行うため、長期的な子どもの変化や成長、子どもが抱える気持ちや考え、課題などを理解する姿勢を学ぶことができる。また、授業中の学習支援や休み時間に子どもと交流することでその成長を促すための学習指導のあり方、生徒指導のあり方を体験的に学ぶことができる。以上のように、本事業を通して、参加学生は教育実習を補完する形で学びが期待されている。

2023年度は、コロナ禍以降一部制限されていた中間指導も対面で実施され、参加学生間の省察の交流も活発に行うことができた。

●2023年度の事業実施スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
・活動受け入れ校の募集	・学生向け参加説明会	・参加希望者の登録	・事前面談	・活動先の決定	・活動先への挨拶回り	・事前指導	・活動校への事前挨拶		・中間訪問	・中間指導	・期末レポート	

← 活動期間 →

●2023年度の参加者数と派遣校園数

2023年度は17名（3年生13名、4年生4名）が12校園で活動に参加した。

以下に、過去3年間の参加学生数と活動校園数を示す。

表 参加学生数と活動校園数（2021～2023年度）

	参加学生数			活動校園数				
	3年生	4年生	合計	幼稚園	小学校	中学校	義務教育学校	合計
2021年度	12	7	19	1	6	1	1	9
2022年度	11	4	15	0	8	1	0	9
2023年度	13	4	17	0	11	0	1	12

●参加学生事後アンケート（2023年12月～2024年1月に実施 17名中17名が回答）

①教員を目指す気持ちがどのように変化しましたか

「非常に強くなった・やや強くなった・変わらない・やや弱くなった・非常に弱くなった」の5段階

【非常に強くなった】7名（41.2%） 【やや強くなった】6名（35.3%）

【変わらない】4名（23.5%）

- ・子どもたちと関わることの楽しさを実感したから。また、実習では、机間指導なども行ったが、授業を行うことそのもので精一杯だった。一人ひとりのつまづきを見つながら指導をすることの適性があるかどうかを確かめることができたから。
- ・実習では経験できない教育の大切さや大変さについてより知ることができた。
- ・教員の方々の様々な工夫を見ることができたから。
- ・子どもと関わり、自分のできることをして成長させてあげたい気持ちが強くなった。
- ・子どもとの関わりを通して、自分の力をより高めたいと感じたから。
- ・自分に向いている校種を考えることができた。目指す気持ちは、校種によって変化した度合いは違いますが、中高の方が気持ちが高まった。

②教員としての資質や地域の教育に貢献する教員としての意識は高まりましたか

【高まった】17名（100.0%）、【高まらなかった】0名（0.0%）

●活動校事後アンケート（2024年12月～2024年1月に実施 12校中12校が回答）

①学生の活動にどの程度満足しましたか

「非常に満足している・満足している・不満である・非常に不満である」の4段階

【非常に満足している】9校（75.0%） 【満足している】3校（25.0%）

- ・必要に応じて、自主的に動いてくれ、支援が必要な児童をサポートしてくれて大変ありがたかった。
- ・担当がなかなか個別の指導に行けないときにいろんな児童のサポートをしてくれたのでとても助かりました。
- ・職員から「いてくれて助かる」という声が多く上がっている。どんな指示にも笑顔で応じ、「教員としてどう動くべきか」自分でも考えているのがわかる。

②来年度以降も「まなびんぐサポート」の学生受入を希望しますか

「強く希望する・希望する・希望しない・全く希望しない」の4段階

【強く希望する】8校（66.7%） 【希望する】4校（33.3%）

- ・児童にとって、まなびんぐの学生と話したり遊んだりすることが貴重な機会となっているため。
- ・教職員にとって、より多面的に児童の様子を知ることができるため。
- ・教員がそれを望んでいるし、現場の様子をさらに知ることで、教員になりたいと思う学生が増えるのではないと思うから。
- ・人手不足であり、また、支援を必要とする児童が多くいるので、ぜひとも来年度も受け入れたい。

【Ⅱ 教師育成サポート推進室事業】

教師育成サポート推進室は、教育実践総合センター長及び3名のセンター教員（麻生、前田、森下）で構成されている。学部3年～大学院生の学生を対象にし、理想の教師像をイメージし具体化するまでのプロセスを支援する「教サポ室主催講座」と、教員採用試験の個別ニーズに対応した指導を行う「教サポ室教員採用試験個別対策」を展開している。2023年度の参加登録学生数は228名であった。

参加登録学生数

学年	M2	M1	4	3	2	合計
人数	5	4	112	107	0	228

1 教師育成サポート推進室主催講座

教サポ室主催講座の延べ参加人数は437名であった。教サポ通信では、教員採用試験受験者を対象にして、学生のニーズに沿った講座をオンライン（zoom）で配信した。教サポ講座では教師力を育成する教師力講座、教員採用試験対策の導入となる先輩の教採体験談の動画配信や、春の教サポ講座を開講した。

教師育成サポート推進室主催講座

日時	講座名	参加教員	参加人数
6月23日5限 zoom	教サポ通信 大分県2次試験 個人面接Ⅱ・自己紹介書対策	森下, 前田	50
オンデマンド (moodle上)	後期教サポ講座ガイダンス なぜなに教サポ	森下, 前田	—
11月7日6限	教師力育成講座1(全学年対象) 学級経営を知ろう	麻生, 加地	15
11月28日6限	教師力育成講座2(全学年対象) 人間関係プログラムを知ろう	麻生, 加地	6
12月5日6限	教師力育成講座3(全学年対象) 先輩の教師生活を知ろう	麻生, 加地	16
12月6日6限 zoom	先輩の教採体験談を聞く講座(全学年対象) 大分県小学校受験者向け	森下, 前田	1
12月19日6限	教師力育成講座4(全学年対象) 保護者対応を知ろう	麻生, 加地	8
3月動画公開	先輩の教採体験談 (大分県小学校者対象)	森下, 前田	4
3月動画公開	先輩の教採体験談 (県外受験者対象)	森下, 前田	3
3月動画公開	先輩の教採体験談 (中高特支受験者対象)	森下, 前田	1

R06年3月18日 2限	春の教サポ講座（新4年生対象） 教採対策イロハ	森下，前田	45
R06年3月22日 2限	春の教サポ講座（新4年生対象） 模擬授業等対策1	森下，前田	46
R06年3月25日 2限@	春の教サポ講座（新4年生対象） 模擬授業等対策2	森下，前田	39
R06年3月27日 2限@	春の教サポ講座（新4年生対象） 願書対策	森下，前田	38
R06年3月29日 2限@	春の教サポ講座（新4年生対象） 面接対策	森下，前田	47
		合計	319

2 教師育成サポート推進室教員採用試験個別対策

教サポ室教員採用試験個別対策の延べ参加人数は451名であった。個別対策は、教師育成サポート推進室の委員(森下，麻生，前田)3名に、非常勤講師の中野・加地2名を加えた計5名で、模擬授業対策・場面指導，集団討論・グループワーク対策，論作文指導，願書添削，面接指導を実施した。

教師育成サポート推進室教員採用試験個別対策

	模擬授業等	集団討論 グループワーク	論作文指導	願書添削	面接指導	合計
4月	35	7	0	14	36	92
5月	31	14	2	13	52	112
6月	21	10	1	16	55	104
7月	18	5	4	15	56	98
8月	14	7	4	1	19	45
合計	119	43	11	59	218	451

3 教師育成サポート推進調査分析

- ・5月：教採個別対策のスタート状況
- ・6月：大分県個人面接Ⅱの特徴
- ・7月：教員採用試験の併願について
- ・10月：2023年度教採対策分析①-合格者と不合格者の個別指導回数との比較-
- ・11月：2023年度教採対策分析②-受講カードの分析-
- ・12月：2023年度教採対策分析③-教採体験談の整理-
- ・1月：2024年度教員採用試験動向の分析

【Ⅲ 研修及び調査研究支援】

1 研修支援

(1) 大分市教育センターから依頼された教職員研修

月 日	実施内容	大学教員名
6月 1日	臨時講師研修	藤田 敦

2 研究及び調査研究支援

(1) 大分県教育センター長期派遣研修生の研究支援

教育実践総合センターでは、大分県教育センターと連携し、大分県教育センターに長期派遣研修生として1年間配属される教員に対し、研究への指導・助言を行っている。長期派遣研修とは、大分県教育の振興と教員の専門的資質の向上に資することを目的とし、公立学校の教諭等が、実践的研修を行うものとされる。教育実践総合センターからの指導・助言の内容は、研究の進め方（先行研究をふまえて自身の研究のオリジナリティをどう設定するか、仮説をどのように立てるか）、データの取り方、分析の仕方、論文の書き方（引用参考文献の示し方）等であった。

月 日	実施内容	大学教員名
9月 4日	中間報告検討会指導	廣瀬 剛, 麻生 良太, 森下 覚, 前田 菜摘
2月 21日	研修成果発表会指導	
研修生	研究テーマ	
森 澄江	道徳科における、自己の生き方についての考えを深める授業づくりー心情曲線を活用した発問構成の工夫を通してー	
木下 正文	ICT を活用した「個別最適な学び」・「協同的な学び」における授業デザイン～ロイロノートとフリーボードを活用した小学校社会科の授業実践を通して～	

(2) 大分県教育センターにおける調査・研究支援

実施内容	大学教員名
学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究	長谷川 祐介
人事異動後の困難に関する調査研究ー採用後、初めての人事異動に着目してー	森下 覚
小・中学校の通級指導教室及び特別支援学級における「自立活動」に関する研究ー特別支援学級の「自立活動」に関する実態調査及び好事例の集積ー	古長 治基
高校における短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する調査研究	藤田 敦
ICT 端末の有効活用に関する調査研究ー1人1台端末の3年間の活用状況と今後の方向性についてー	市原 靖士

(3) 大分市教育センターにおける調査・研究支援

教育実践総合センターは、大分市教育センターと共に作業部会、専門部会、大分市現職教員教育等連携推進協議会を開催し、現職教員の資質向上を図る研修プログラムの開発・充実を目的とした協議を進めている。2023年度の研究テーマは「学生及び教員の資質向上を図る『人材育成』の在り方～各学校のOJTに係る調査・研究を通して～（2年目）」であった。教育実践総合センターからの研究支援の内容は、特徴的なOJTの事例選定の助言、調査・研究の情報発信の助言であった。

月 日	実施内容
6月19日	第1回作業部会：OJTに係る調査・研究及び各学校への情報発信、まなびんぐサポートについての協議
7月18日	第1回専門部会：連携の取り組みについての確認、作業部会の報告
11月20日	第2回作業部会：日常のOJTの取組及び校内研究等におけるOJTの調査、まなびんぐサポートについての報告・協議
12月15日	第2回専門部会：連携の取り組みについての中間報告、作業部会の報告、連携推進協議会の議題等の検討
2月6日	大分市現職教員教育等連携推進協議会
3月21日	第3回作業部会：次年度の方向性についての協議

【IV 附属学校園との連携・支援】

1 附属幼稚園

1.教育目標

主体的に生きる子どもの育成

2.研究テーマ

「遊びや生活の中で深く学ぶ子どもを育む」

～対話で「感じる」・「膨らむ」・「広がる」数の世界～

3.めざす子ども像

○心豊かなやさしい子ども

3歳児／身近な環境に自分なりにかかわり親しむ

4歳児／物事の美しさや不思議さ、人の温かさに触れ、思いを素直に表現しようとする

5歳児／身近な環境に進んで働きかけ、親しみや思いやりをもってかかわろうとする

○工夫し遊びを楽しむ子ども

3歳児／安定した気持ちで、友だちと時々かかわりながら遊ぶ

4歳児／自分なりの思いや考えをもち、友だちと一緒に遊ぶ

5歳児／共通の目当てをもち、友だちと遊びをつくり出す

○明るく伸び伸びと生活する子ども

3歳児／いろいろなことに興味をもち、自分でしようとする

4歳児／いろいろなことに自分から取り組み、一生懸命しようとする

5歳児／いろいろなことに自分たちで意欲的に取り組み、やり遂げようとする

本園は、教師一人一人が日々の保育を見つめ、園の教育目標の共通理解のもと、自己課題をもって研究に取り組むことが、保育力の向上とともに、質の高い保育につながると考え、実践に取り組んでいます。

子どもたちが遊びや生活の中で、無意識のうちに「数量・図形」を用いて過ごしていること、私たち教師も何気なく保育の中で「数量・図形」にふれていたことに気付きました。そこで、子どもたちの遊びや生活の中で溢れている数量や図形などをひとまとめに捉えて『数の世界』と表現することにしました。1年次では、子どもたちの『数の世界』をみていくと、繰り返し遊んだり継続してかかわったりしながら、体験を重ねていくことが、知識につながり、学びが深まっていることが分かりました。2年次では、教師の「言葉」に関する援助が大切であることがみえてきました。そこで、“深く学ぶ子ども”の姿を、1・2年次から、繰り返し・継続して・言葉で表現して遊びが発展していく姿などと捉えることができました。

3年次は、“深く学ぶ子どもの姿”を繰り返し遊ぶ姿から、遊びの中で思いが行き来する姿やうまくいかずに葛藤する姿など試行錯誤する姿ではないかと捉えることとしました。また、試行錯誤する中での「言葉」のやりとりを「対話」と表現しました。「対話」とは“教師と子ども”や“子どもと子ども”だけではなく“人と物”などの「やりとり」を意味しています。

今年度は、子どもたちの「対話」がうまれるために、遊びの振り返りや創造ができるような環境の構成や子どもの思いを広めるなどの援助を工夫し、子どもたちが、それぞれの年齢に応じた「対話」を楽しみながら遊んでいる姿を追って研究をすすめたいと考え、研究主題を『遊びや生活の中で深く学ぶ子どもを育む』～対話で「感じる」・「膨らむ」・「広がる」数の世界～と設定しました。大学教員のサポートも得ながら全員で課題解決に取り組み、保育力の更なる向上と質の高い保育の実践をめざしています。

<大学一附属幼稚園との連携の実際>

月 日	実 施 内 容	大学教員名
毎週木曜日 年間 10 回	園内研究への指導・助言	永田 誠
毎週木曜日 年間 31 回	園内研究への指導・助言	向井 隆久
7 月 13 日	保育研究協議会 打ち合わせ	齊藤 友子
9 月 19 日	保育研究協議会 打ち合わせ	藤田 敦
10 月 13 日	保育研究協議会 打ち合わせ	藤田 敦
10 月 19 日	保育研究協議会 打ち合わせ	向井 隆久
10 月 20 日	保育研究協議会 打ち合わせ	齊藤 友子
10 月 24 日	保育研究協議会 打ち合わせ	藤田 敦
10 月 27 日	保育研究協議会 助言者	齊藤 友子
10 月 28 日	保育研究協議会 助言者	藤田 敦
10 月 28 日	保育研究協議会 助言者	向井 隆久
1 月 16 日	冬のお楽しみ会（園児対象）	附属中学校 御手洗 宏昭
1 月～3 月	プロモーションビデオ作製	廣瀬 剛
1 月～3 月	プロモーションビデオ作製	清水 慶彦

2 附属小学校

1. 学校教育目標

グローバルリーダー(Think globally, act locally)の育成~未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、自己を磨き高め合う子どもの育成~

2. 重点目標

(1) 生きて働く知識・技能の習得

- ・すべての学習の基盤となる言語能力
- ・人間関係を豊かにし、社会生活を円滑におくる文化としての礼儀やマナー
- ・目標に向かって粘り強く取り組む忍耐力や持久力

(2) 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成

- ・情報を整理・分析し、組み合わせて新しい関係性を創出する情報活用能力
- ・社会や集団の一員として自分の役割を果たそうとする「公(公共)」の意識
- ・自分の心身や自己の学びを振り返る自己認知力(メタ認知)

(3) グローカルな視点を持ち、世界やふるさとに貢献できる人間性の涵養

- ・協働したり、折り合いをつけたりする調整力
- ・異なる意見や立場を尊重する寛容の心
- ・自ら正しいと信じるに従って主体的に行動する自律性

(4) 働き方改革の推進

- ・改革マインドの継続(スクラップ&スリム、勤務時間の適正化)
- ・ミドルリーダーを育成する学校組織マネジメント
- ・更なる改革に向けた学校評価と PDCA サイクルの充実(学校評議員会等)

3. 重点的取組

(1) すべての教育活動を下支えする安全・安心な学校の実現

①学校安全

- ・健康安全情報の共有、安全点検・安全確認の徹底。全職員による高い当事者意識
- ・防犯・救急救命研修の充実、防災訓練等の安全に関する教育の推進

②危機管理体制

- ・管理職と各担当者との連携のもと行う初動を誤らない危機対応
- ・チーム支援を活用した組織的ないじめ対策・不登校対応
- ・子どもや保護者からサインをキャッチ。SC、SSW等専門スタッフとの連携

③共感的人間関係を醸成する指導

- ・主体的、積極的に「きく」指導(フリートーク、褒め言葉のシャワー等)
- ・取組を価値づけ、成長を実感させる指導(価値語、成長ノート等)

④公共の意識の醸成と「真の力」に向かう指導

- ・公で通用するための基礎を培う3つの取組(挨拶、掃除、はきものそろえ)
- ・班活動・係活動・委員会活動
- ・チーム活動による役割遂行(一人ひとりがそれぞれのリーダー、フォロアーとリーダーが「信頼と尊敬でつながる人間関係」)

(2) 地域のモデル校としての魅力ある学校づくりの推進

①外国語教育の一層の充実と地域への環流(外国語セミナーの開催)

- ・学校の特色として、全学級で取り組む外国語・外国語活動の授業
- ・外国の方と交流する活動、外国語で発信する活動の推進

②GIGAスクール構想にもとづくICT活用実践の蓄積と発信

- ・一人一台端末を効果的に活用した情報活用能力を高める授業づくり
- ・「リアル」×「デジタル」の最適な組み合わせによる価値創造的な学びの推進

③地域と繋がり教科を横断する「生活科・総合的な学習の時間」の実践・発信

- ・自然や生命に直接ふれ、人や実社会と直接関わるなど、具体的な活動や体験の中で、子ども自らが問題に「気づき」、「問い」を見出し、問題解決していく授業づくり
- ・グローバルな視点をもって地域の課題や現代的な課題に取り組み、言語能力や情報活用能力を活用しながら問題解決していく探究学習の充実

(3) 教員の力量を高め、持続的・発展的に進める授業改善

①大分県の教育課題を踏まえた教育実践

- ・「新大分スタンダード」を意識した単元構想による授業改善
- ・授業公開等(大分県教育委員会との連携強化、指導主事による助言等)

②指導教諭・研究主任等の授業観察や日常的な授業公開を通じた着実な授業力の向上

- ・授業観察シート活用、子どもの声で活動をつくり子どもの姿で見取る

③教育活動の質の向上をめざすカリキュラムマネジメント推進

- ・全教科等での思考ツール活用、カリマネタイムの設定、資質能力マトリクスの活用

④自学自習ができる「自律した学習者」をめざした学習指導の充実

(4) 使命や要請に応えることのできる学校組織の構築

①組織マネジメント

- ・主幹教諭、統括学年主任を中心とした学校組織マネジメントの充実
- ・意思決定機関としての運営委員会の充実(学校経営への参画)
- ・学年経営マネジメント・部会経営マネジメント(PDCAサイクル)の充実
- ・ICT推進部によるICT活用研究の組織的な推進
- ・服務規律の徹底(個人情報)の適切な管理、非違行為0、ハラスメント撲滅)

②連携・協力

- ・附属幼・中・特、大学、教育委員会、教育関係機関等との連携・協力
- ・保護者、地域、PTA、後援会等との連携・協力

<大学一附属小学校との連携の実際>

月 日	実 施 内 容	大学教員名
本実習 前半	教育実習 事前観察実習 (引率)	三次 徳二, 御手洗 靖
本実習 後半	教育実習 事前観察実習 (引率)	三次 徳二, 御手洗 靖
4月26日	算数授業作りの助言	川寄 道広, 河村 真由美
5月11日	ワーキンググループ	三次 徳二, 御手洗 靖, 麻生 良太
5月12日	・今年度研究会メンバーの (自己) 紹介 ・今年度の活動についての打ち合わせ	黒川 勲, 吉野 敦
5月17日	算数指導案作成の助言	川寄 道広, 河村 真由美
5月17日	学級活動授業指導・助言	長谷川 祐介
6月5日	実習生面談	御手洗 靖
6月20日	算数指導案作成の助言	川寄 道広, 河村 真由美
6月23日	道徳科授業の指導案審議	黒川 勲, 吉野 敦
6月26日	教育実習 事前観察実習 (引率)	三次 徳二, 御手洗 靖
7月3日	教育実習 事前観察実習 (引率)	三次 徳二, 御手洗 靖
7月4日	道徳科の授業参観と事後研参加	黒川 勲, 吉野 敦
7月10日	算数授業の事後研	川寄 道広, 河村 真由美
7月19日	教育実習 事前指導 (授業づくり・指導案作成)	三次 徳二, 麻生 良太
7月26日	教育実習 事前指導 (授業づくり・指導案作成)	三次 徳二, 麻生 良太
8月3日	道徳科授業の振り返り	黒川 勲, 吉野 敦
8月30日	公開研について	川寄 道広, 河村 真由美
10月10日	道徳科授業の指導案審議	黒川 勲, 吉野 敦
10月12日	道徳科授業の指導案審議	黒川 勲, 吉野 敦
10月19日	算数授業研 算数授業事後研	川寄 道広, 河村 真由美
10月19日	藍染・絞り染めの方法についてゲストティーチャー	都甲 由紀子
10月31日	全国学力学習状況調査結果とアセス・笑顔アンケートの分析依頼と資料説明	麻生 良太, 森下 覚 前田 菜摘
11月16日	板書指導演習	三次 徳二
11月29日	道徳科の授業参観	吉野 敦
11月30日	板書指導演習	三次 徳二
11月30日	道徳科の授業参観	吉野 敦
12月4日	道徳科の授業参観	吉野 敦
12月5日	道徳科の授業参観	吉野 敦

12月7日	道徳科の授業参観	黒川 勲
12月7日	算数公開研 指導案審議	川寄 道広, 河村 真由美
12月19日	道徳科授業の振り返り 短期プロジェクト出張報告	黒川 勲, 吉野 敦
1月19日	道徳科授業の振り返り 1年間の振り返り	黒川 勲, 吉野 敦
1月19日	算数公開研 指導案審議	川寄 道広, 河村 真由美
2月8日	衣類についてゲストティーチャー	都甲 由紀子
2月15日	衣類についてゲストティーチャー	都甲 由紀子
2月28日	全国学力学習状況調査結果とアセス・笑顔 アンケートの分析結果について	麻生 良太, 森下 覚 前田 菜摘

3 附属中学校

1.学校教育目標

自主自律の精神の下、高い学力・深い愛の心・堪え忍ぶ力を兼ね備えた気品ある附中生の育成を目指す

2.重点課題

- ① 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ② 自主的・主体的・創造的な取り組みを引き出す生徒会活動等、魅力的な教育活動の展開
- ③ 心と命を守る日々の教育活動の充実と組織的な推進

(1)具体的な取り組み

①教育

- 学習指導：ICT活用能力の向上と個別最適化された学習を通して、個々の生徒の資質・能力を育成する。
「主体的・対話的で深い学び」の充実及び「探求課題の解決」、「協働的な学び」の実現に向けて授業改善・授業内容の質的向上に努める。
- 生徒指導：・生徒理解により一層努め、自主的な活動や生徒同士のつながりを大切にし、互いが認め合い尊重し合える自律する集団づくり、信頼できる人間関係を構築する指導を行う。
・生徒会活動や学校行事等を行う上で、その時の状況でできる最善のやり方を生徒達自身に考えさせながら主体的な活動をうながし、生徒の自治能力の育成を計画的に図る。

・いじめを早期発見し、素早く対応する。

・特別支援を要する生徒に対して、合理的配慮を加えた指導を行う。

- 進路指導：生徒の将来を見つめ、本人の希望を尊重しつつ、個性や適性に配慮した指導を行う。

②学校研究

- ・ICT活用能力の向上と「個別最適化された学び」と「協働的な学び」の実現を柱とした学校研究に全校で取り組む。
- ・「学習記録」「授業中の評価」を有効にするためのルーブリックを構築する。

≪公開研後≫

- ・年間及び単元の「見通し」と「振り返り」の往還による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の仕組みを全校で構築する。
- ・生徒の実態を適切にとらえるための「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の工夫をはかる。

③教育実習

- ・実習を通して学生に教師になる自覚・責任を持たせるとともに実践的な指導力を育成する。
- ・教職大学院との連携体制づくりのさらなる協力・充実を図り、院生の指導力の向上に寄与する。

④学校運営

- ・各部会・各学年間の連携を密にし、円滑なコミュニケーションを取りながら学校運営を遂行する。
- ・保護者や地域との連携を一層深め、連絡を密にし、協力体制を強化する。
- ・人権・同和教育の推進及び充実を図る。
- ・多様性を認め合う教育活動を推進する中で、生徒自身の意見等を積極的に取り入れながら、校内の様々な環境を見直していく。
- ・教職員の働き方を見直し、仕事を精選し、教職員が心身の健康を維持できるようにする。

(2)生徒への重点指導

○ 気品と魅力

- ・質の高い授業を創っていこう
- ・自分も仲間も大切にしよう
- ・美しい心を育んでいこう

<大学一附属中学校との連携の実際>

月 日	実 施 内 容	大学教員名
4月21日	新年度の顔合わせ 公開研究会の授業の指導案審議	川崎 道弘, 河村 真由美
5月8日	公開研究会の授業の指導案審議	川崎 道弘, 河村 真由美
6月16日	公開研究会のプレ授業の反省会	川崎 道弘, 河村 真由美
6月23日	公開研当日の指導助言	花坂 歩
6月23日	公開研当日の指導助言	甘利 弘樹
6月23日	公開研当日の指導助言	川崎 道弘, 河村 真由美
6月23日	公開研当日の指導助言	三次 徳二
6月23日	公開研当日の指導助言	麻生 雄治
6月23日	公開研当日の指導助言	大塚 道太
7月24日	R5 年度附中入試検討	川崎 道弘, 河村 真由美
10月13日	数学科の評価について ①具体的事例を使った検討 ②他校での事例交流	川崎 道弘, 河村 真由美
11月14日	野外観察	三次 徳二
12月14日	聞く・話すの授業	花坂 歩
12月18日	1月校内授業研究会の指導案審議	川崎 道弘, 河村 真由美
1月19日	1月校内授業研究会の指導案審議	川崎 道弘, 河村 真由美
3月19日	次年度の九州大会の授業について	川崎 道弘, 河村 真由美

4 附属特別支援学校

<p>1. 教育目標 豊かに人や社会と交わり、自ら進んで取り組み、自己表現できる子どもの育成</p> <p>2. めざす子ども像 ・人や社会と豊かに交われる子 ・自分から進んで取り組み自己表現できる子 ・明るく元気なやさしい子</p> <p>3. 重点目標 (1) 子どもの活動参加への意欲を高める授業づくりの更なる深化 【重点的取組】 ○ 年間指導計画及び個別の指導計画の見直し 〈意欲を高める単元（題材）の設定〉 ○ R 研(授業の振り返り)の活用 〈特性に応じた意欲を高める支援の設定〉 【重点的指標】 ①U-note の活用 ... 題材開始前、『意欲』の視点から管理職等がチェック ②実践事例の作成 ③管理職等からの『意欲』の視点での授業へのアドバイス</p>

(2) 安心・安全な学校づくりの推進

【重点的取組】

- 危機管理体制の見直し
- 実効性のある訓練の実施

【重点的指標】

- ① 危機管理マニュアルの見直しと新規策定
〈管理職と防災担当(新規に保健安全部に特化)により作成〉
- ② 学校泊を想定した訓練、保護者と共同の訓練の実施
〈学期に1回の訓練と防災アドバイザーによる助言〉

<大学—附属特別支援学校との連携の実際>

月 日	実 施 内 容	大学教員名
7月11日	特定授業研究会の事前指導 ・ 授業改善へつながった	衛藤 裕司
7月14日	特定授業研究会の事前指導 ・ 授業改善へつながった	高橋 徹弥
9月22日	特定授業研究会の指導助言 ・ 学校研究の検証・改善につながった	衛藤 裕司
9月22日	特定授業研究会の指導助言 ・ 学校研究の検証につながった	高橋 徹弥
8月2日	自立活動に関する研修会の内容決定 ・ 本校の課題の共有ができた	古長 治基
8月28日	自立活動に関する講義・演習 ・ 基礎資料の書き方・考え方の理解が進んだ	古長 治基
8月23日	児童生徒の支援に関する相談 ・ 支援方法の整理ができた	佐藤 晋治
9月19日	児童生徒の支援に関する相談 ・ 支援方法の整理ができた	佐藤 晋治
9月28日	児童生徒の支援に関する相談 ・ 支援方法の整理ができた	佐藤 晋治
10月2日	保護者からの相談 ・ 支援方法の整理ができた	佐藤 晋治
10月13日	児童生徒の支援に関する相談 ・ 支援方法の整理ができた	佐藤 晋治
1月26日	児童生徒の支援に関する相談 ・ 支援方法の整理ができた	佐藤 晋治

【V 教育・研究活動】

1 学部への参与

項目	内容	担当教員
教育実習関係	教育実習事前・事後指導の企画・運営	麻生 良太
各種委員会	教育実践総合センター運営委員会委員	廣瀬 剛（委員長） 麻生 良太 森下 覚 前田 菜摘
	教師育成サポート推進室運営委員	廣瀬 剛（室長） 森下 覚 麻生 良太 前田 菜摘
	まなびんぐサポート事業運営委員	廣瀬 剛（委員長） 前田 菜摘 麻生 良太 森下 覚
	教育実習委員会	麻生 良太
	人事運営協議会委員	麻生 良太
	企画委員会委員	廣瀬 剛
担当授業科目	教師学	麻生 良太 中野 正倫 加地 伸二
	教育支援実践研究Ⅰ・Ⅱ	前田 菜摘 森下 覚 麻生 良太
	人権教育論	森下 覚
	生活（小）	麻生 良太
	小学校授業論	麻生 良太
	発達と教育の心理学Ⅰ	麻生 良太
	発達と教育の心理学Ⅱ	麻生 良太
	教育実習事前事後指導	麻生 良太
教職展開ゼミ事前指導・事後指導	前田 菜摘	

2 他学部・大学院への参与状況

項目	内容	担当教員
担当授業科目	教職大学院：教育データの分析と活用	麻生 良太
	教職大学院：子ども理解・学校生活の実践的開発	森下 覚
	教職大学院：教育実践研究報告書	麻生 良太 森下 覚
	福祉健康科学部：発達と学習の心理学Ⅰ	麻生 良太
	福祉健康科学部：発達と学習の心理学Ⅱ	麻生 良太
	経済学部・理工学部：教職論	前田 菜摘
	経済学部・理工学部：教育課程論	前田 菜摘
	経済学部・理工学部：教育方法の理論と実践	前田 菜摘

3 県・市町村教育委員会との連携状況

県・市町村	内容	担当教員
大分県	大分県教育センター長期派遣研修生 中間報告検討会 指導助言	廣瀬 剛 麻生 良太 森下 覚 前田 菜摘
	大分県教育センター長期派遣研修生 研修成果発表会 指導助言	廣瀬 剛 麻生 良太 森下 覚 前田 菜摘
	大分県教育委員会と大分大学教育学部等との 連携協力推進協議会	廣瀬 剛
大分市	大分市現職教員教育等連携推進協議会 作業部会	麻生 良太 森下 覚 前田 菜摘
	大分市現職教員教育等連携推進協議会 専門部会	廣瀬 剛 麻生 良太 森下 覚 前田 菜摘

4 附属学校園との連携

校園名	内 容	担当教員
附属学校園・ 学部・大学院	王子キャンパス会議	廣瀬 剛
	学部・大学院・附属学校園連携委員会	廣瀬 剛
	共同教育研究推進委員会	廣瀬 剛
	四校園協働研究推進委員会	廣瀬 剛

5 社会貢献

内 容	担当教員
大分県歯科医師会 歯と口の健康図画ポスターコンクール 審査員	廣瀬 剛
大分県立芸術文化短期大学 非常勤講師	廣瀬 剛
宇佐市障がい者芸術文化活動支援事業 社会福祉法人清流会 相談支援事業所ルポーズ主催「アトリエぐう」造形ワークショップ講師	廣瀬 剛
おおいた障がい者芸術文化支援センター アウトリーチ事業 美術ワークショップ講師	廣瀬 剛
おおいた障がい者芸術文化支援センター 調査・発掘事業（人材発掘）調査員	廣瀬 剛
「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」大分大学生涯学習講座 アートワークショップ講師	廣瀬 剛
大分大学 STEAMLab. クリエイティブ講座ワークショップ講師	廣瀬 剛
大分県広告美術協同組合 屋外広告物講習会講師	廣瀬 剛
公益財団法人日本グラフィックデザイン協会大分地区 JAGDA おおいた ポスターデザインワークショップ講師	廣瀬 剛
エフエム大分番組審議委員	森下 覚
大分大学の理系女性研究者の話を聞こう！ 出前型ダイバーシティ入門講義 講演	前田 菜摘
熊本大学教職大学院情報教育研修会 校内研修を改革する1・2 パネリスト	前田 菜摘
利島村教員研修高度化モデル事業推進委員会 外部助言者	前田 菜摘
独立行政法人教職員支援機構「ニーズベースの研修支援モデルの構築と実装化に関する調査研究プロジェクト」フェロー	前田 菜摘

6 外部資金等導入状況

(1) 科研費受給状況

研究期間	助成金名称	研究題目	研究代表者
2017年4月～ 2024年3月 (7年目)	科学研究費 (基盤研究C)	共創的越境を可能にする学校 インターンシップの実施体制 モデルの構築	森下 覚
2022年4月～ 2025年3月 (2年目)	若手研究	校内研究のマネジメントとそ の参加を通じた教師の成長に 関する研究	前田 菜摘

(2) 学内研究費受給状況

研究期間	研究題目	研究代表者
2023年4月～ 2024年3月	「教育実践総合センター・ニュース Edu-ta!」に 基づいた附属学校園および地域の教育委員会等諸 機関との研究・教育に関する連携強化プロジェク ト（令和5年度教育学部・教職大学院短期プロジ ェクト）	廣瀬 剛 佐藤 努 木村 典之 御手洗 宏昭 友成 洋 麻生 良太 森下 覚 前田 菜摘
2023年4月～ 2024年3月	現場体験に対する教育学部学生の意識調査：まな びんぐサポート事業の運営改善に向けてのニーズ 調査	前田 菜摘

【VI センター刊行物】

1 教育実践総合センター紀要

種類	2023年度 第41号 掲載論文	執筆者
原著	小学校社会科における憲法と人権に関する授業開発研究 －哲学及び政治学の見地からの検討－	黒川 勲 鄭 敬娥
原著	小、中学校理科担当教員のワークシートに関する意識や活用状況 －大分県A市の公立小、中学校における調査結果－	三次 徳二 立花 真誠
原著	小学校社会科歴史授業の教材開発力育成の取り組みについて －「小学校教材研究Ⅱ」高度化の試み－	甘利 弘樹 青柳 かおり
原著	大分大学教育学部附属小学校の教育実習改革の歩みと継承 －「初任者の困り」解消に向けた教育実習の取り組みを中心として －	木村 典之 桐野 愛
原著	中学校社会科公民的分野「地方自治」の新たな授業実践 －社会参画を視野に－	阿南 幸一 大場 将公 甘利 弘樹
原著	先人の活動について学ぶ小学校社会科授業の提案 －大分県の先人を事例として－	甘利 弘樹

2 Edu-ta! センター・ニュース

「教育実践総合センター・ニュース Edu-ta!」は、本センター及び学部・大学院・附属学校園の諸活動を本学及び大分県内、全国の国立大学教育実践研究関連センター等に発信している。年に1度発行し、2023年度は第7号(A3 8ページ)を刊行した。

全国的には教員志望者が減少する中、大分大学教育学部では106名が教員採用試験を受験、87名が合格と、合格者数、合格率ともに以前高い結果を残している。今号では、教育実践総合センターがどのように教員養成支援を実施し貢献してきたのかについて、教員採用試験合格者の声の紹介、教育実習(観察実習)の紹介、地域の教育委員会との連携や研究支援の実績について報告している。

3 人材バンク

人材バンクは、学部・大学院研究科教員が附属学校園に貢献しうる研究領域や教育支援の内容を提供し、附属学校園の教育・研究の推進・協力を目的に、平成 17 年度に試用を始めた。

平成 28 年度からは、学部教員だけでなく、教職大学院の教員の情報、附属学校園の教員の校内の担当、専門、研究情報等も掲載し、学部、教職大学院、附属学校園だけでなく、附属学校園間の教育・研究の推進・協力も図れるようになった。

なお、人材バンクの登録状況は、次の表のとおりである。

人材バンクの登録状況

種 別	登録者数(2024 年度)
学部・大学院研究科教員等	67 名
附属幼稚園教員	7 名
附属小学校教員	26 名
附属中学校教員	26 名
附属特別支援学校教員	28 名

【Ⅶ 施設活用（施設利用状況）】

利用目的	年月日	時間	利用室名
令和5年度第1回王子キャンパス会議 四校園長会議	2023.04.05	13:30 - 15:00	多目的演習室
附属小学校と大学との算数研究会	2023.04.26	18:00-19:00	多目的演習室
教育実習ワーキング	2023.05.11	14:00-16:00	多目的演習室
第1回 附属四校園協働研究推進委員会	2023.05.15	16:00-16:45	多目的演習室
第2回王子キャンパス会議	2023.05.16	09:00-12:00	多目的演習室
小学校算数授業研究会	2023.05.17	18:00-19:30	多目的演習室
オンライン会議	2023.06.06	14:00-16:00	多目的演習室
第3回王子キャンパス会議	2023.06.09	13:30-16:30	多目的演習室
大学院実習科目の事前・事後指導	2023.06.15 ～2023.06.16	07:30-18:00	多目的演習室
小学校算数授業研究会	2023.06.20	18:00-19:30	多目的演習室
大学院実習科目の事前・事後指導	2023.06.22 ～2023.6.23	07:30-18:00	多目的演習室
大学院実習科目の事前・事後指導	2023.06.29 ～2023.06.30	07:30-18:00	多目的演習室
大学院実習科目の事前・事後指導	2023.07.06 ～2023.07.07	07:30-18:00	多目的演習室
第4回王子キャンパス会議	2023.07.21	13:30-16:30	多目的演習室
授業練習	2023.08.03	12:45-14:00	多目的演習室
第5回王子キャンパス会議	2023.09.12	13:30-16:30	多目的演習室
令和5年度 新任教員FD	2023.09.14	14:30-16:50	多目的演習室
第6回王子キャンパス会議	2023.10.20	13:30-16:30	多目的演習室

第2回 附属四校園協働研究推進委員会	2023.11.17	16:00-16:45	多目的演習室
第7回王子キャンパス会議	2023.11.17	13:00-15:50	多目的演習室
大学院授業「授業分析の理論と実践研究」に係る授業参観の事前・事後指導	2023.11.20	09:00-12:30	多目的演習室
第8回王子キャンパス会議	2023.12.08	13:00-16:00	多目的演習室
教育実習 WG	2023.12.15	13:00-14:00	多目的演習室
第9回王子キャンパス会議	2024.01.19	13:30-16:30	多目的演習室
令和5年度第2回大分大学教育学部・教育学部附属学校園合同実習委員会	2024.01.22	13:30-18:00	多目的演習室
第10回王子キャンパス会議	2024.02.16	09:30-11:30	多目的演習室
第3回 附属四校園協働研究推進委員会	2024.02.21	16:00-16:45	多目的演習室
第11回王子キャンパス会議	2024.03.21	13:30-16:30	多目的演習室

4 センター規程，紀要の編集・発行及び投稿に関する内規

1 大分大学教育学部附属教育実践総合センター規程

平成 28 年 4 月 1 日制定
平成 28 年教育学部規程第 12 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は，大分大学学則（平成 16 年規則第 8 号）第 4 条第 4 項の規定により，大分大学教育学部附属教育実践総合センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センターは，教育指導及び教育臨床に関する理論的及び実践的研究を行うとともに，実践力ある教員の養成，現職教員の資質向上のための研修プログラムの開発，教育学部及び附属学校園との連携の推進並びに地域の教育委員会との連携の推進を図ることを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターは，次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教育実践に関する理論的及び実践的研究
- (2) 教育相談及び教育臨床に関する研究及び臨床研修の指導
- (3) 教育実習の指導及び管理
- (4) 学生の教育実践に対する補完プログラム及び発展プログラムの提供
- (5) 学習支援ボランティアの指導体制の充実
- (6) 教師育成サポート推進室に係る業務
- (7) 現職教員の研修プログラムの開発
- (8) 教育学部と附属学校園の共同研究の推進及び調整
- (9) 地域の教育委員会との連携推進
- (10) その他センターの目的を達成するために必要な事項

(職員)

第 4 条 センターに，次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 主担当の教員
- (3) その他必要な職員

(センター長)

第 5 条 センター長は，センターの業務を掌理する。

2 センター長の選考は，大分大学教育学部役職者選考に関する規程（平成 28 年教育学部規程第

9号)に基づき行う。

3 センター長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 欠員が生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。
(主担当の教員)

第6条 主担当の教員は、教育研究に従事するとともにセンターの業務を行う。

(運営委員会)

第7条 センターの円滑な運営を図るため、センターに大分大学教育学部附属教育実践総合センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(客員研究員)

第8条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員は、センターの事業に関する研究に従事する。

3 客員研究員は、運営委員会の推薦に基づき、教育学部長が委嘱する。

4 客員研究員の任期は、1年又は6月とする。

5 客員研究員に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第9条 センターの事務は、教育学部事務局において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、教育学部長が別に定める。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年教育学部規程第23号)

この規程は、平成29年1月1日から施行する。

2 教育実践総合センター紀要の編集・発行及び投稿に関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は、大分大学教育学部附属教育実践総合センター（以下「センター」とする）の研究紀要「教育実践総合センター紀要（別称：大分大学教育学部附属教育実践総合センター紀要）」（以下「紀要」とする）の編集・発行及び投稿に関し、必要な事項を定めるものとする。

(収録内容)

第2条 紀要は、未発表の発達教育臨床（教育臨床心理・発達障害臨床）、教育実践開発（教育実践研究・教育情報システム）に関する原著論文、資料、寄稿、及び客員研究員研究報告を掲載するものとする。

- 2 原著論文は発達教育臨床、教育実践開発の発展に顕著な貢献が認められると判断された学術論文を示す。
- 3 資料は実践事例、調査、実験、理論等に関するレポートを示す。
- 4 寄稿は大分大学教育学部附属教育実践総合センター紀要編集委員会（以下「編集委員会」とする）の依頼に基づき掲載する論文や講演録等を示す。
- 5 客員研究員研究報告はセンターの客員研究員が長期研修で取り組んだ実践事例、調査、実験、理論等に関するレポートを示す。

(発行)

第3条 紀要は、原則として年1回（3月）発行する。

(編集委員会)

第4条 紀要の編集は、編集委員会が担当し、その事務はセンターの主担当教員が行う。

(審議事項)

第5条 編集委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 投稿原稿の採否に関すること。
- 二 その他紀要の編集・発行及び投稿に関すること。

(組織)

第6条 編集委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 センター長
 - 二 センターの主担当教員
 - 三 センター運営委員から選出された学部教員2人及び附属教員2人
- 2 前項第3号の委員について、原則として、学部教員から選出される委員はコース運営委員会の代表と副代表とする。また、附属教員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
 - 3 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第7条 編集委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、編集委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(会議)

第8条 編集委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 編集委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときには、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第9条 編集委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させることができる。

(投稿資格)

第10条 投稿者は、投稿日において次の各号の一に該当する者とする。

- 一 単著の場合は、教育学部及び大学院教育学研究科の主担当教員または附属校園の教員であること。
 - 二 共著の場合は、筆頭著者もしくは連名著者が前号に該当していること。
 - 三 その他、センター長が特に許可した者であること。
- 2 単著の著者及び共著における筆頭著者と投稿者は、投稿日において別に定める研究倫理教育を受講していること。

(編数及びページ数)

第11条 投稿できる編数は、単著の場合、1人2編までとする。ただし、第1報目と第2報目を同時に投稿することはできない。

- 2 ページ数は、日本語（横書き・縦書き）・欧文ともに、和文抄録（日本語の場合のみ）・英文アブストラクト・図表等を含め、原則として、完成原稿16ページを限度とする。

(原稿の提出)

第12条 原稿は、次の各号をすべて満たしているものとする。

- 一 ワードプロソフトを使用し、書式に従って作成したものであること。
 - 二 別に定める「教育実践総合センター紀要執筆要項」に基づいていること。
 - 三 図表等も含めた原稿を、2部印刷していること。
- 2 提出の際は、印刷した原稿（2部）、投稿カード、誓約書等の必要書類をセンターに学内便で提出するものとする。同時に、原稿のデータを電子メールでセンターまで送るものとする。
 - 3 原稿提出の締切は、毎年度11月30日とする。ただし、締切日が土曜日、日曜日等の休日

にあたるときは、当該休日後の最初の日とする。

(原稿の修正)

第 13 条 投稿後の原稿の修正は、次の各号の一に該当するとき以外は認めない。ただし、いずれの場合にあっても、著者が確認して修正するものとする。

- 一 閲読の結果、閲読者から修正を求められたとき。
- 二 その他編集委員会が必要と認めたとき。

(校正)

第 14 条 校正は、原則として著者が再校まで行うものとする。ただし、校正時の原文の変更は認めない。

(論文の公開)

第 15 条 掲載論文等については、インターネットを介して学内外に公表する。

(著作権)

第 16 条 掲載された論文等の著作権は、センターに帰属する。なお、著者はセンターに帰属する著作物を自ら利用することができる。

附 則

この内規は、平成 13 年 10 月 19 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 22 年 6 月 21 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 23 年 2 月 16 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 24 年 5 月 23 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 28 年 5 月 25 日から施行する。

附 則

この内規は、令和 2 年 5 月 25 日から施行する。

附 則

この内規は、令和3年5月28日から施行する。

附 則

この内規は、令和5年6月20日から施行する。

附 則

この内規は、令和6年5月28日から施行する。

(令和6年5月28日 紀要編集委員会決定)

2023（令和5）年度
教育実践総合センター運営委員会委員

廣瀬 剛（センター長）	三次 徳二	大野 貴雄	藤原 耕作
佐藤 努	木村 典之	御手洗 宏昭	友成 洋
麻生 良太	森下 覚	前田 菜摘	

教育実践総合センターレポート第44号

2024（令和6）年7月

編集発行 大分大学教育学部附属教育実践総合センター

代表者 廣瀬 剛

〒870-0819 大分市王子新町1番1号

Tel 097-543-4933

Fax 097-543-4936

<http://www.ed.oita-u.ac.jp/shisetsu/center/>

表紙デザイン：廣瀬 剛